

No. 1221

ロッキード疑獄

児玉、ついに法廷へ

6月2日、ロッキード社から巨額の対日工作資金を受け取ったとして、所得税法違反、外国外為法違反で起訴された児玉誉士夫が初公判出廷のため、東京地方裁判所に姿を見せた。事件発生以来1年4ヶ月自宅にこもりきりだったがついに国民の前に立たされた。

法廷では人定質問、起訴状朗読に続いて罪状認否が行われたが、コンサルタント料の受領は認めたものの工作資金の受け取り領収証作成などについては全面的に否認、約40分間の尋問を終え退廷した。

田中元総理大臣の逮捕を頂点に約一年にわたって日本を揺るがしたロッキード事件は今度の児玉の初公判で丸紅、全日空と合わせて3つのルートが法廷にそろったことになる。各法廷では冒頭陳述から多くの事実がつき止められており、審理が進めば更に事件の真相が明らかにされそうだ。

あ　る　青　春

— 八ヶ岳中央農業実践大学校 —

長野県の中部八ヶ岳台地の中央にある八ヶ岳中央農業実践大学校。ここには今、これからの日本の農村指導者、自立経営農家の後継者をめざす80人の若者たちが学んでいる。この学校では広い農場で徹底した生産実習が行なわれている。農場が教室とたたえから農作業を実践する中で勤労意欲を養い、正しい生産の技術態度を身につけさせている。酒井校長は「農業は机の上で勉強するだけではだめです。実際の農作業の中でいろいろな物を学んでいかなければなりません」研修生は「高校では教室で学んだだけでしたが、ここは実際に出来るので大変わかりやすい。また、それだけにむづかしいが………」と語る。

強い精神と根性、それはたゆまぬ訓練から生まれる。一日もおろそかにはできぬ。安らぎの一時、全国から集まった農村青年が悩みを話し、希望を語る。農村の朝は早い。午前5時30分の起床は若者たちもつらい。が、自然は待ってはくれない。

それぞれの農場へ散ってゆく。土にまみれ汗にまみれる若者たち。

そこには日本の明日の農業に夢をたくすもえあがる青春がある。